

OED Online における接尾辞 *-ed* 型複合形容詞の分析

Compound Adjectives Suffixed with *-ed* on *Oxford English Dictionary Online*

西部真由美

NISHIBU Mayumi

愛知大学国際コミュニケーション学部

Faculty of International Communication, Aichi University

E-mail: mnishibu@vega.aichi-u.ac.jp

Abstract

This study aims to analyze compound adjectives suffixed with a past-participial or de-nominalizing *-ed* on *Oxford English Dictionary (OED) Online*. Many past-participial elements are compounded with an adverb *well*, while de-nominalized ones are compounded with an adjective describing physical characteristics. Some adjectives derive from compound nouns suffixed with a de-nominalizing *-ed*. It is noteworthy that *OED Online* states in its headwords' etymologies that some participial *-ed* forms, such as *lived* and *behaved*, originate from de-nominalized forms. The *-ed* suffixed compound adjectives drastically increased between the mid-15th and 16th centuries, revealing that they appeared earlier than other types of compound adjectives.

1. はじめに

複合形容詞 (compound adjectives) とは、2つ以上の語 (または語根) で構成されている形容詞の働きをする複合語のことで、多くの場合ハイフンでつながれている。拙稿 (西部, 2019) に引き続き *Oxford English Dictionary (OED) Online* を使用し、本稿では分析対象を接尾辞 -ed で終わる複合形容詞に限定して分析を試みる。複合形容詞には、接尾辞 -ed を伴うものが多く、その種類も多い様に見受けられる。

また、接尾辞 -ed には動詞の過去形・過去分詞形を派生するものと、名詞の後につくことで、名詞から形容詞を派生する「脱名詞化」の働きをするものもある。

OED では、見出し語として前者の -ed を *suffix*¹、後者を *suffix*² として区別している。また、接尾辞 -ed で終わる形容詞には、その語源の欄に派生の由来である語根と接尾辞を明記している。動詞の過去分詞形から形容詞に認定したものは *adj* または *adj*¹ と品詞を表記し、その語源表記は *v. + -ED suffix*¹ としている。名詞に接尾辞 -ed が付いて派生した形容詞では、品詞表記は *adj* または *adj*² とし、語源表記は *n. + -ED suffix*² としている。

この2つのタイプの接尾辞 -ed 型複合形容詞について、その特徴を明らかにしていく。

2. 分析方法

OED Online の Advanced search という検索機能を利用して、ターゲットとする語を抽出した。「見出し語」(headwords) に採用されている「形容詞」(adjective) で、「廃語」(obsolete) を除いた現在使用されている語 (current) に対象範囲を絞った。検索語はワイルドカードを使用し、「*.*ed」と指定した。不規則変化動詞で -ed で終わらないもの (*made, known* など) は含まれず、*bred* や *fed* などには含まれる。自動検索で、約 2300 件がヒットした。この中には、複合形容詞だけではなく、接尾辞ではない ed で終わる語などの非該当例も含まれてしまう。したがって、その中から頻度の高い順に上位 100 語を抽出し、手作業で非該当例 (*blood-red, co-ed* など) を除外した。また、この 100 語の中で、語頭要素が接頭辞である語は分別し、接尾辞 -ed の種類・構成形式・品詞表示・前後の要素、という観点から分析を行った。

3. 上位 100 語の分析

3.1. 頻度

語の頻度は、*OED Online* のウェブサイトにある Key to frequency (OUP, 2018a) によれば、1970 年以降現在までのデータで算出しており、頻度は赤色の星の数 (1 から 8) によって示され、8 が最も頻度が高く 1 が低い。百万語当たりの頻度に換算すると、1000 回以

上の頻度を持つものが★8個(OED Onlineの見出し語の約0.02%が該当)で示されている。以降10分の1の割合で頻度の度合いが下がり、★7個は100~999回(約0.18%)、★6個は10~99回(約1.0%)、★5個は1~9.9回(約4%)、★4個は0.1~0.99回(約11%)、★3個は0.01~0.099回(約20%)、★2個は0.099回より少なく(約45%)、★1は滅多に使われない専門用語(約18%)である。★8から6までは比較的にな日常的な文脈で目にする馴染みのある語彙であるが、★5個になると文学的な語彙や教養的な文脈で使われる語彙が多くなり、★4個は日常的ではない語となるが、それでもまだ母語話者には認識できる語で、小説や報道で見かける語である、と説明されている。

頻度上位100語の接尾辞-edで終わる複合形容詞の中で、約3分の1となる31語が★5つ(百万語当たり1~9.9回)の頻度であった。残りは★4つ(百万語当たり0.1~0.99回)であった。

抽出した形容詞を、頻度の高い順に左から右に羅列したものが、表1である。なお、語頭要素が接頭辞として扱われ、複合形容詞として認定されないものはカッコで括弧である。

表1. 接尾辞-edで終わる抽出例(頻度上位100語)

頻度	抽出語
★5つ (1~9.9/mil.)	well-defined, well-established, old-fashioned, middle-aged, (under-developed), short-lived, well-developed, value-added, above-mentioned, (self-contained), one-sided, open-ended, well-informed, well-organized, (self-employed), well-educated, age-related, deep-seated, fine-grained, good-natured, well-equipped, well-founded, able-bodied, (self-centred/-centered), well-designed, well-formed, well-preserved, long-lived, (self-imposed), well-dressed, well-prepared
★4つ (0.1~0.99/mil.)	well-dressed, well-prepared, ill-fated, (non-aligned), well-balanced, well-documented, high-pitched, well-intentioned, well-placed, like-minded, (self-interested), single-minded, lopsided/lopsided, deep-rooted, right-handed, well-fed, far-fetched, well-behaved, (self-directed), well-planned, (unco-ordinated), well-advised, high-powered, hard-pressed, open-minded, well-qualified, well-ordered, (self-reported), cold-blooded, short-sighted, thin-walled, blue-eyed, two-sided, (self-appointed), cross-legged, left-handed, light-hearted, (under-employed), double-edged, well-disposed, well-pleased, well-rounded, high-minded, well-adjusted, ill-advised, narrow-minded, well-bred, well-marked, simple-minded, well-stocked, empty-handed, grey/gray-haired, heavy-handed, (under-nourished), well-connected, well-liked, left-sided, many-sided, (self-proclaimed), hard-boiled, red-haired, (self-assured), (self-inflicted), wedge-shaped, white-haired, good-humoured/-humored, mass-produced, single-handed, sex-linked

表1にある語は、*OED*の見出し語全体の中で、頻度上位約17%以上の語であり、母語話者であれば意味がわかる語である。これらは、すべて2要素で構成されており、3要素以上から構成される語はない。概観すると、*well*で始まるものが顕著であることがわかるが、この点は3.3節で詳しく述べる。

3.2. 複合形容詞の認定

第2節で述べた方法でターゲットとなる見出し語を抽出し、接尾辞 *-ed* の種類・構成形式・品詞表示で分類した結果を表2にまとめた。

まず、表2には、言語学的には複合形容詞から除外される抽出例があることを確認しておきたい。複合形容詞は2つ以上の語根 (roots) から成るとされる。接頭辞・接尾辞は定義上、単独では語とならず、他の語根に接合して意味を成す拘束形態素 (bound morphemes) である。接頭辞や接尾辞が語根に接合した語は、形態は似ているものの、複合語ではなく、派生語 (derivatives) と分類される。したがって、表2の下段にある接頭辞 (*self-*, *under-*, *non-* など) で始まる語は、通常複合語には含まれない。表2の太線より上段の複合形容詞が、分析の対象である。

さらに、接辞に似た紛らわしい語根も存在し、例えば *Anglo-*, *bio-*, *mono-*, *multi-*, *socio-*, *super-*, *pseudo-*, *-graphic*, *-phobia* の様なギリシャ語やラテン語といった古典的な言語を語源とする語根は、連結形 (combining forms) と呼ばれる。連結形は、拘束語根 (bound roots) で通常は複合語の最初か最後の位置を占めるので接辞に似ているが、連結形は1) 単独の語と同様にはっきりとした意味を持ち、2) 自由語根 (free roots) がなくても2つ以上の連結形同士で単語を形成することができ (e.g., *Anglo-phobia*)、3) 接辞と接合して単語を形成できる (e.g., *non-graphic*) という点で接辞と異なっている。このような連結形を含む複合語は、言語学的には他と区別するために新古典複合語 (neo-classical compounds) と称され、表2には3語 (*ill-advised*, *ill-fated*, *cross-legged*) が含まれている。

表2. *OED Online* における見出し語の接尾辞 *-ed* 型形容詞 (頻度上位 100 語)

種類	抽出例	構成形式	品詞表記
複合 形容詞 (V-ed) 46, 54.1%	well (5): -advised, -behaved*, -connected, -disposed, -informed	adv+adj 32, 37.6%	adj and n
	above-mentioned, double-seated, far-fetched, hard-pressed well (23): -adjusted, -balanced, -bred, -defined, -designed, -developed, -dressed, -educated, -established, -formed, -intentioned, -liked, -marked, -ordered, -organized, -planned, -pleased, -prepared, -preserved, -qualified, -rounded, -stocked, -trained		adj
	well-placed	adv+V-pp	adj and n
	well (4): -documented, -equipped, -fed, -founded	5, 5.9%	adj

種類	抽出例	構成形式	品詞表記
	hard-boiled, high-powered ¹ , long-lived*, open-ended, short-lived*	adj+adj 5, 5.9%	adj
	value-added	n+adj	adj and n
	age-related, time-honoured/-honored, sex-linked	4, 4.7%	adj
複合形容詞 (N-ed) 30, 35.3%	double-rooted*	adv+N-ed 1, 1.2%	adj
	able-bodied, narrow-minded, red-haired, simple-minded		adj and n
	old-fashioned (adj (and adv) and n), right-handed (adj and adv)		adj, adv and n
	blue-eyed, fine-grained, good-natured [#] , high-pitched, light-hearted*, short-sighted, thin-walled, -haired (2): white, grey/gray -handed (4): empty, heavy, left, single -minded (4): high, like, open [#] , single -sided (4): left, many, one, two	adj+N-ed 27, 31.8%	adj
	lop-sided/lopsided (n/v+N-ed), wedge-shaped* (n+N-ed)	n+N-ed 2, 2.4%	
新古典 3, 3.5%	ill-advised, ill-fated	comb+?	adj
	cross-legged	comb+N-ed	
複合語の派生 6, 7.1%	middle-aged (middle age),		adj and n
	cold-blooded (cold blood), double-edged (double edge) [#] , good-humoured/-humored (good humour) [#] , high-powered ² (high power)	CN-ed	adj
	mass-produced (mass-produce)	CV-pp	adj
派生語 (接辞 + 要素) 16	self-employed		adj and n
	self (7): -appointed, -centred/-centered, -contained, -directed, -imposed, -inflicted, -proclaimed	prefix+adj	adj
	under-developed		
	non-aligned	prefix+V-pp	adj and n
	unco-ordinated	Prefix(2)+V-pp	adj
	under-employed, under-nourished	prefix+?	adj
	self: -assured (self-assurance), -interested (self-interest), -reported (self-report)	NP-ed	adj

- 注)・構成形式の太字表記 **adj** : 動詞の分詞形で形容詞として *OED Online* の見出し語になっているもの、**V-pp** : 動詞の過去分詞形、**N-ed** : 脱名詞化接尾辞が付いた要素、**CN-ed** : 複合名詞に脱形容詞化接尾辞がついたもの、**CV-pp** : 複合動詞の過去分詞形
- ・* : -ed 形の派生に別解釈があるもの (N-ed から後に V-pp になったもの、一部に V-pp の解釈もあるもの)
 - ・# : NP-ed と N-ed のどちらの解釈も可能なもの
 - ・? : 記載のないもの
 - ・high power² は「高い地位にある」の意味では NP-ed

下段の接頭辞が接合した派生語を除外して、複合形容詞を種類別に見てみると、語尾の要素が過去分詞 (V-pp) 由来であるものが 54.1%、名詞に -ed が付いたもの (N-ed) が 35.3%、新古典複合形容詞が 3.5%、複合名詞からの派生が 5.9%、複合動詞からの派生が 1.2% となっている。

3.3. 動詞 -ed 型複合形容詞の特徴

まず、表2に示した通り、分詞形容詞・動詞の過去分詞形が語尾となるタイプの複合形容詞は、頻度上位85語中の46語で、最も大きな割合(54.1%)を占めている。このタイプで副詞が語頭にcomingものは複合形容詞全体の43.5%であるが、形容詞語頭、あるいは名詞語頭は全体の5%前後である。語尾が分詞形容詞・過去分詞形のタイプに限定すると、副詞語頭は約7割にも及ぶ。さらに、副詞語頭の複合形容詞37語の中で、33語(約9割)が*well*で始まるものであり、*well*+過去分詞(分詞形容詞)が典型となっていると判断できる。

品詞表示に形容詞と名詞の両方(adj and n)が記してある語を見ると、*value-added* という経済用語を除き、すべての語(*well-advised*, *well-behaved*, *well-connected*, *well-disposed*, *well-informed*, *well-placed*)がその特徴や性格を持った人を指し、「～である人」という意味で名詞となっている。

3.4. 名詞 -ed 型複合形容詞の特徴

表2で示した様に、このタイプの複合形容詞は全体の35.3%を占めており、そのタイプの9割が形容詞を語頭としている。太字で示した語尾の要素(-*haired*(3語), -*handed*(5語), -*minded*(6語), -*sided*(4語))が繰り返し現れており、このタイプ全体の6割を占めている。これらの要素は、-*sided*以外はすべて、容姿や性格などの人の特徴を表現するのに使用される。この点では、-*bodied*, -*eyed*, -*natured*, -*hearted*, -*sighted*も同様で、合わせるとこのタイプの約77%が人物の特徴を表現する形容詞となっている。したがって、名詞-ed型複合形容詞では、形容詞+(人の特徴に関わる意味を持つ)名詞-edが典型であると考えられる。

品詞表示で見てみると、形容詞と名詞の両方(adj and n)である語(*able-bodied*, *narrow-minded*, *red-haired*, *simple-minded*)は、前項の場合と同様に、複合形容詞が表わす特徴や性格を持った人を指す名詞となっていることがわかる。

3.5. 複合語から派生した複合形容詞

抽出した見出し語には、複合名詞から形容詞化したもの5例(*middle-aged*, *cold-blooded*, *double-edged*[#], *good-humoured/-humored*[#], *high-powered*)と、複合動詞が分詞の形態をとって形容詞化したもの1例(*mass-produced*)があった。

表2では、構成形式はOED Onlineの語源(Etymology)の記載に準拠している。しかし、表2の#が右肩に振ってある語(*double-edged*, *good-humoured/-humored*)では、複合名詞+*-ed*, *suffix*²に別解釈も併記してある。例えば、“double edge + *-ed suffix*², or double adv. +

edged adj.”と記されており、両方の解釈が可能である。

また、逆に adj + N-ed 形式の 2 例 (*good-natured, open-minded*) には、複合名詞 (*good nature, open mind*) に -ed が付加したとする別解釈を示唆する記述、例えば “*after good nature*” などが加えられている。この 2 つの構成形式では、どちらか一つに分類することは難しい複合形容詞が少なからず存在する。

4. 接尾辞 -ed 型複合形容詞の記載における変化

複合語の扱い方の指針として、*OED Online* の序文にある headwords and the selection of entries (OUP, 2018b) では、「多くの複合語と派生語は過去の版では主たる語の下に入れ子の様に組み入れられていたが、現在では独立した見出し語の資格が与えられている」と述べられている。現在のオンライン版では接尾辞 -ed 型複合形容詞の扱いは大きな変容を遂げている。以前は語尾要素の語幹である動詞や名詞の見出し語の下に複合語の例として付加的に記載されていたが、現在ではその多くが見出し語に変えられている。これに伴い、接尾辞 -ed 型複合形容詞の語尾要素自体も独立して、形容詞として見出し語に変えられている。つまり、語幹の見出し語の欄に記載されていた分詞形容詞や脱名詞化形容詞が、独立した形容詞として大量に見出し語に採用されているのである。

今回の調査で見た限りでは、表記ルールに沿ってすべての見出し語に語源（どの語幹にどの接尾辞が結合したのか）を明記する作業が進められており、語源が曖昧なものは改訂されないまま残されている様である。見出し語になっている接尾辞 -ed 型複合形容詞で書きかけのものをみると、その多くの場合が語源の解釈が一つに定まらない、あるいは時の経過とともに変化して現在の語になり、そのどの過程で判断するのかわからないという問題に直面している様である。

この問題は、*OED* の 2 種類の接尾辞 -ed の記述の中でも見ることができる。

(1) -ed, *suffix*¹

... 3. It is possible that some of the adjectives formed by the addition of *-ed* to nouns may be examples of this suffix rather than of *-ED suffix*². The apparent instances of this which can be traced back to Old English, however, are found to belong to the latter. . .

名詞に -ed を付加してできた形容詞の中には、*-ED suffix*² でなくむしろ *suffix*¹ の例かもしれないものがあるだろう。しかし、一見すると *suffix*¹ と思われる例でも古英語までさかのぼることのできるものは、実際には *suffix*² であるとわかる。 (訳は筆者)

(2) *-ed, suffix*²

… In modern English, and even in Middle English, the form affords no means of distinguishing between the genuine examples of this suffix and those participial adjectives in *-ed suffix*¹ which are ultimately < nouns through unrecorded verbs.

近代英語、さらには中（期）英語に於いてですら、純粹のこの接辞と分詞形容詞 (*suffix*¹) とを識別する方法を、この形態は持っていない。記録に残っていない動詞であれば結局は名詞なのだから。 (訳は筆者)

接尾辞 *-ed* を遡ると種類の区別がつかないのであれば、語源の語構成の表記はどうやって決定しているのだろうか。その信頼性に疑問が残る。

さらに、別の問題として、分詞と形容詞の区別の基準が分からないという点が挙げられる。接尾辞 *-ed* 型複合形容詞の語尾要素を形容詞として見出し語に採用するという一貫した改訂が進行中ではあるものの、形容詞と認定されたものと動詞の分詞形のままとにされているものとは何が違うのかが明確でない。

次の例では、少数の複合形容詞でしか使われない語尾要素が、形容詞として見出し語に採用され、改訂中である。

(3) *fetched, adj.*

Etymology: < fetch v. + *-ed suffix*¹.

Only in combinations, as DEEP-FETCHED *adj.*, FAR-FETCHED *adj.* (下線は筆者)

この *fetched* を、なぜ単独で形容詞として見出し語にする必要があるのだろうか。辞書の記述に一貫性を優先すると、語の曖昧な側面をデジタル式に処理せざるを得なくなり、(3) のような妙なことになって行くのだろう。

5. 複合形容詞の初出年

見出し語を初出年別に見ることができる Timeline という機能が *OED Online* の検索結果の画面上に出てくる。この機能を使って初出年毎に、接尾辞 *-ed* 型複合形容詞とそれ以外の複合形容詞のタイプ数を調べた。なお、検索用の Advanced search では、除外する項目を not の検索で設定できる。より正確なタイプ数を得るために、接尾辞 *-ed* 型複合形容詞では、**-ed* の検索に加えて、接頭辞の一部 (*self-*, under-*, non-*, co-*, un-**) を not の列にして、対象外となる派生語をできるだけ除外した。結果は図 1 の通りである。

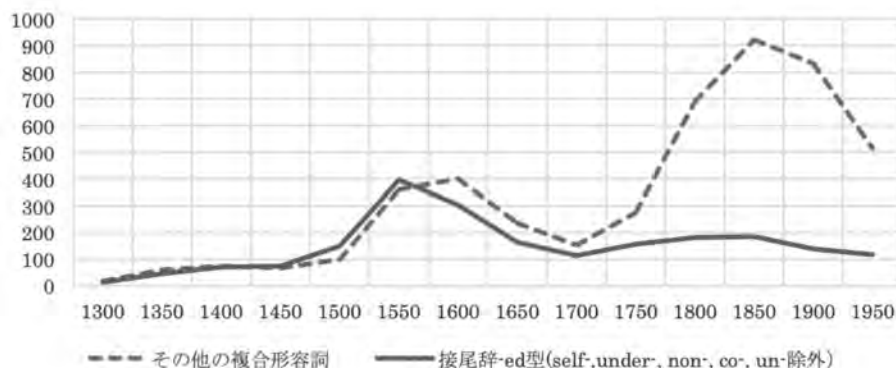


図1. 初出年別にみた複合形容詞のタイプ数

図1では、横軸は50年の間隔の始まりの年号を示し、縦軸は初出した語のタイプ数を示している。タイプ数には除外すべき語が含まれている可能性もあるが、大きな数ではないので、このままで問題はなかろう。

図1から、接尾辞-ed型複合形容詞の初出は、1550年にピークを迎え、それ以降は減少してほぼ横ばい状態であることがわかる。対照的に、その他の複合形容詞では、1750年以降に急増して1850年から1900年の間にピークを迎え、その後減少傾向にあるものの依然として高い数値になっている。

1700年までは、接尾辞-ed型複合形容詞とその他の複合形容詞との間で差はほとんど見られず、恐らくその増減傾向は辞書編纂のために入手できた文献数を反映したのではないかと考えられる。しかし、1750年以降に見られる両者間の顕著な差は、接尾辞-ed型は比較的早い時期に出現して定着した形式で、1750年以降は別の構成形式を持つ複合形容詞が優勢になってきたことを示している。この点は興味深く、次の研究で詳細を明らかにしたい。

6. 終わりに

本稿では、OED Online を使用して、接尾辞-ed型複合形容詞の特徴を探った。紙の辞書しかない時代には何十年もかかる辞書学や語彙の研究が、極めて短い時間で行えるようになった。このオンライン版辞書の、証拠に基づいた緻密な記述を追及する姿勢と尽力に、驚愕を覚えずにはいられない。

参考文献

Bauer, Laurie (1983) *English Word-formation*, Cambridge: Cambridge University Press: Cambridge.

Oxford University Press (2018a) Key to frequency. Retrieved from <https://public.oed.com/how-to-use-the-oed/>

--- (2018b) Preface to the Third Edition of *the OED*. Retrieved from <https://public.oed.com/history/oed-editions/preface-to-the-third-edition/>

--- (2021) *Oxford English Dictionary Online*. Available from <http://www.oed.com/>

西部真由美 (2015) 「複合語の分析：限定用法の複合形容詞の場合」深谷輝彦・滝沢直宏 編『英語コーパス研究シリーズ第4巻 コーパスと英文法・語法』pp. 41-69. ひつじ書房

--- (2019) 「*OED Online* でみた複合形容詞について」『文明 21』第 42 号 pp. 109-122. 愛知大学国際コミュニケーション学会